

(様式第1-2号)

平成22年度 農業主導型6次産業化整備事業実施計画

1 6次産業化法人について

(1)6次産業化法人の概要

6次産業化法人の名称	組織の形態	代表者名	設立年月日
うおぬま倉友農園株式会社	農事組合法人以外の農業生産法人	代表取締役 関 秀俊	平成15年11月1日
主たる事務所の住所	新潟県南魚沼市早川189番地1	TEL	セキュリティに配慮し、 非公開といたします。
		FAX	

(2)6次産業化法人の構成員

構成員の氏名	年齢	住所・所在地 (都道府県市町村名)	出資金額	出資比率	備考 (農業生産法人である場合)
当該項目については個人情報を含むため、非公開といたします。					
			10,000,000 円	100 %	

(注) 備考欄には、農業生産法人である場合に農地法第2条第3項第2号に掲げる要件のいずれかを記入すること。この場合、常時従事者は「常」、農地等の使用収益権を移転・設定しているときはその旨を記入すること。

(3)6次産業化法人の経営状況

項目	
総収入(A)	当該項目については企業の経営内容の詳細を含むため、 非公開といたします。
総支出(B)	
売上高(C)	
営業利益(D)	
経常利益(E)	
当期利益 (A-B)	
総資本(G)	
自己資本(H)	
総負債(I)	
収支率 (A/B × 100)	
総資本経常利益率 (E/G × 100)	
売上高経常利益率 (E/C × 100)	
負債比率 (I/H × 100)	

- (注)
- 1 総収入＝売上高＋営業外収益＋特別利益
 - 2 総支出＝売上原価＋販売費及び一般管理費＋営業外費用＋特別損失
 - 3 営業利益＝売上高－売上原価－販売費及び一般管理費
 - 4 経常利益＝営業利益＋営業外収益－営業外費用
 - 5 負債比率＝総負債(他人資本)÷自己資本×100

(4)6次産業化法人の現状及び課題

<p>現状と課題</p>	<p>[概要] 山紫水明の南魚沼市(旧塩沢町)はおいしいお米を作る上で、なくてはならない気象条件と水に恵まれ、日本一の魚沼産コシヒカリの生産が行われている。ブランドイメージも高く、価格も他の産地の米より高い水準にある。しかしながら、近年消費者ニーズは安全な食品、低価格な食品、顔の見える食品へとシフトしており、魚沼産コシヒカリといえど、今までの生産システムでは消費者ニーズに応え、尚且つ高価格を維持する事は困難である。現在行われている生産調整の先行きや、後継者不足そして有利販売、顔の見える販売に向けた流通体制の整備など課題が山積みである。又、農業を取り巻く環境も変わり企業参入も容易になってきた。そこで当社はこれらを踏まえ、生産の受託から販売まで一貫したシステムを構築し現在の栽培方法を減農薬、無農薬そして有機栽培へと生産体制を見直し、又雪エネルギーを利用した雪むろ貯蔵で一年中新米と同じ状態で保存し、消費者の求める、安全でおいしい農産物を直接食卓へ届けるシステムを行っている。</p> <p>[沿革] ・平成15年まで関秀俊個人が認定農業者として生産を行っていた。 ・平成15年に法人組織となり農業生産法人となる。 ・平成16年よりその日本一のコシヒカリを自然天日乾燥と特別栽培米(減農薬・減化学肥料)で更においしく安全に生産し販売を行っている。 ・平成18年に地元におにぎり屋を出店する。 ・平成19年に雪中貯蔵庫を建設し200俵(12t)を雪の中に半年間貯蔵し販売する。 ・平成20年から酒の販売を始め雪中貯蔵庫にて1、2年熟成保管し販売する。 ・平成21年に食味計を導入し、より品質の向上を目指している。</p> <p>[商品] ・塩沢産魚沼コシヒカリ 1kg、2kg、5kg、10kg (735円/kg) ・塩沢産極上コシヒカリ「はざ掛け米」 2kg、5kg (1,470円/kg) ・塩沢産雪中貯蔵「雪むろ米」 2kg、5kg (1,050円/kg) ・雪中貯蔵酒「倉友」 720ml (2,100円)</p> <p>[所得] ・農業収入は8,500万円と全体の約70%である。 ・はざ掛け米は、予約の受付開始後、3ヶ月で予約完売となる。 ・雪むろ米は、3年目でお客に美味しいと評価され、予約完売となる。</p> <p>[雇用] ・現在4名を雇用しているが、地域の農業従事者について、高齢化が進んでいることから、年々農作業の受託面積等が増加し、今後、生産部門で1名の雇用を予定している。また、販売事業も多様化していることから、販売部門でも1名の雇用を予定している。</p> <p>[事業に取り組むこととなった背景] ・当社は地元で耕作が出来なくなった人の農地の受け皿として、毎年耕作面積を増加させている。 ・農業を取り巻く環境は、米の消費量が減少、単価も下がり厳しい現状である。この様な現状で、より付加価値を付け、美味しく安全な米を年間通じて提供していかなければならない。 ・「雪むろ米」は、現在200俵(12t)であるが、お客様からの評価も高く、利益幅も高く、増産する必要性がある。しかし、作付面積の増加に伴い機械や設備投資も増加することから、新たな雪中貯蔵庫の建築に当たって、本事業に取り組むこととした。 ・当地では、転作配分が30%あり、耕作面積が増えた分、転作面積も増加する。そこで、そばと野菜を転作田に作付けし、雪むろ貯蔵することで付加価値(おいしさ)をつけてお客様に提供していく。</p>
<p>6次産業化の展開方針</p>	<p>[6次産業化の展開方針] ・当該事業により、農畜産物集出荷貯蔵施設(雪むろ)を増築し、お客様からの評価が高く、利益幅も高い、雪中貯蔵米「雪むろ米」の増産を図る。あわせて、雪むろを活用し、雪中貯蔵した野菜を漬物として加工販売し、所得の向上を図る。さらに、当地では減反を利用してのそば栽培が盛んで、そば屋からの評価も高く、雪中貯蔵したそば粉を提供し、所得の向上を図る。 ・増産する「雪むろ米」については、以下により販売促進を図る。 当店直営の「おにぎり屋」での販売。 新潟物産展等全国のデパート等での出展により、雪むろをアピールし、個人客のリピーターを確保。 高速道のサービスエリアでの販売。 御中元、御歳暮ギフトとしての販売。</p>

①農業生産

作物・部門別	計画時		目標年度	
	作付面積等	生産量	作付面積等	生産量
塩沢産 雪むろ米	2.5 ha	12 t	11.6 ha	55.6 t
塩沢産 はぎ掛け米	2.8 ha	12.6 t	2.8 ha	12.6 t
塩沢産魚沼コシヒカリ	1.4 ha	6.7 t	1.4 ha	6.7 t
そば	— ha	— t	6.0 ha	4.5 t
野菜	— ha	— t	0.8 ha	40.0 t

※「計画時の作付面積等」の合計面積と共同転作面積(1.2ha)の和が計画時の利用集積面積である。

②加工(2次産業分野)

作物・部門別	内容	製造量	
		計画時	目標年度
漬物	雪中貯蔵した野菜を漬物加工	0 t	1 t

③流通・販売(3次産業分野)

作物・部門別	内容	販売額	
		計画時	目標年度
雪むろ米	個人販売、おにぎり屋、催事、サービスエリア等で販売	11,340 千円	42,000 千円
漬物	〃	0 千円	1,050 千円
そば	〃	0 千円	3,307 千円
野菜	個人販売、おにぎり屋、本店舗	0 千円	2,940 千円

2 連携法人について

該当なし

3 成果目標及び達成プログラム

(1)目標設定

項目	計画時 (平成 21 年度)	1年度目 (平成 22 年度)	2年度目 (平成 23 年度)	3年度目 (平成 24 年度)	4年度目 (平成 25 年度)
(所得の向上に関する成果目標)	88,599 千円	93,795 千円	102,300 千円	113,850 千円	126,549 千円
売上高の増加	— %	106 %	115 %	129 %	143 %
(雇用の創出に関する成果目標)	4 人	4 人	5 人	5 人	6 人
雇用者の増加	4 人	4 人	5 人	5 人	6 人
(地域の活性化に関する成果目標)	7.9 ha	9.7 ha	14.0 ha	18.3 ha	22.6 ha
利用集積面積の拡大	7.9 ha	9.7 ha	14.0 ha	18.3 ha	22.6 ha

(2)目標設定の考え方

項目	目標設定の考え方
(所得の向上に関する成果目標)	農畜産物集出荷貯蔵施設の整備により、目標年度までに売上高を37,950千円増加させる。 (「雪むろ米」726俵(43.6t) 30,660千円増加、「漬物」1t 1,050千円増加、「そば」4.5t 3,307千円増加、「野菜」35t 2,940千円増加。)
(雇用の創出に関する成果目標)	「雪むろ米」作付増加に伴い、目標年度までに、生産部門で1名、販売部門で1名の常時雇用を増加させる。
(地域の活性化に関する成果目標)	当地域では農業従事者の高齢化が進んでおり、耕作が出来なくなった農業者が離農する際の受け皿となることで、利用集積面積を拡大させ、遊休農地発生を防止し、地域に貢献する。

4 整備計画等

(1) 機械・施設等の整備計画

No.	事業主体名	整備内容		工期		機械・施設の 設置・保管住所
		施設名	事業量 (規模、台数等)	着工 年月日	竣工 年月日	
1	うおぬま倉友農園株式会社	農畜産物集出荷貯蔵施設(貯雪・貯蔵等)	1棟341.41㎡	平成22年11月11日	平成23年3月10日	南魚沼市早川
2	うおぬま倉友農園株式会社	乾燥調製施設(精米・乾燥・製粉等)	既存倉庫のうち 53.16㎡ 精米機、乾燥機、製粉機各1台	平成22年11月11日	平成23年3月10日	南魚沼市早川
3						
4						
5						

No.	総事業費	負担区分			融資先		備考
		国庫補助金	自己資金	その他	金融機関名	償還年数	
1	71,012 千円	32,253 千円	38,759 千円	- 千円	-	- 年	補助率1/2以内 除税額3,382千円 うち国費1,613千円
2	24,114 千円	10,697 千円	13,417 千円	- 千円	-	- 年	補助率1/2以内 除税額1,148千円 うち国費535千円
3							
4							
5							
計	95,126 千円	42,950 千円	52,176 千円	- 千円	-	- 年	

- (注) 1 工期欄には、申請時においては着工及び竣工予定年月日を、実績報告時には実際の着工及び竣工年月日を記入すること。
- 2 融資先欄には、補助対象物件を担保に供し、自己資金の全部又は一部を金融機関から融資を受けようとする場合に記入すること。
- 3 備考欄には、国庫補助率を記入するとともに、仕入れに係る消費税等相当額について、これを減額した場合には減額した金額を、仕入れに係る消費税相当額がない場合には「該当なし」と、仕入れに係る消費税等相当額が明らかでない場合には「含税額」とそれぞれ記入すること。
- 4 補助金実績報告時において、承認のあった事業実施計画のうち整備計画の内容に変更が生じた場合には、本様式の4の(1)整備計画を修正して添付すること。

(2) 事業費低減の方策

施設等名	事業費低減の具体的方策
農畜産物集出荷貯蔵施設、乾燥調製施設	一般競争入札を実施する。 農畜産物集出荷貯蔵施設を既存倉庫と隣接させ、既存倉庫に精米機等を設置し、建築費の削減や作業効率の向上を図る。

(3) 関連事業

他の補助事業で整備した機械・施設等

事業名	事業内容	実施年度	利用計画	利用実績	利用率(%)

(4)機械・施設等の利用計画

事業実施主体 (管理主体)	構造・規格	規模・台数	管理運営 従事者	利用(稼働)期間	施設運営に係る 収入/年間(千円)	施設運営に係る 支出/年間(千円)
うおぬま倉友農園株式会社	鉄骨造(貯雪・ 貯蔵等) ・精米機 ・乾燥機 ・製粉機	1棟341.41㎡ 既存倉庫の うち53.16㎡ ・精米機 ・乾燥機 ・製粉機 各1台	役員(正)1人 職員(副)1人	360日	37,957	32,084

対象作目	稼働計画(処理量)/年間	適正かつ十分な利用が見込まれる理由
米・そば・野菜	米 43.6t 漬物 1t そば 4.5t 野菜 35t	原材料の確保については、作付面積の拡大により、十分確保できる見込み。また、「雪むろ米」等の需要についても、現在の顧客の反応から見て、施設の適正な利用が可能である。

(注)1 機械・施設等ごとに作成すること。

2 処理量は機械・施設等に応じて、(t・千円・ha)等を記入すること。

5 費用対効果分析

項目	効果等	備考
総事業費:A(千円)	95,126	
1 効果の内訳(年効果額):B(千円)	8,229	
(1)直接効果	8,229	
①生産向上効果	8,521	
②経費節減効果	-5,292	
③経営基盤保全効果		
④農外所得増加効果	5,000	
(2)間接効果		
①地域所得増加効果		
②洪水防止効果		
③水源かん養効果		
④土壌浸食防止効果		
⑤土砂崩壊防止効果		
⑥有機性廃棄物処理効果		
2 直接効果比率:直接効果額/年効果額	100	
3 廃用損失額:C(千円)		
4 還元率:D	0.08	
5 総合耐用年数	17.5	
6 妥当投資額:E=B/D-C	102,173	
7 投資効率:F=E/A	1.07	